

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：北上川上流自然再生事業(和賀川)事業概要・モニタリング・成果		
水系/河川名：北上川水系/和賀川	河川分類：中小河川	
河川の流域面 890	整備計画流量：1400m <sup>3</sup> /s	セグメント：1
事業：環境整備	事業開始年度 平成21年度	
目標設定：定性的	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(高水敷)、掘削(低水路)、掘削(河床)、護岸整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、歴史・文化への配慮		

背景・課題、目標設定

<背景>

北上川と和賀川の合流点の河原は、湯田ダム完成以前の昭和22年代においては河道も広く礫河原が広がっていた。

しかし平成17年当時和賀川合流点は、外来種であるハリエンジュ等の樹木繁茂や河道内の滞筋の固定化から河川の2極化が進行し、川の流れが左岸に固定化されていた。

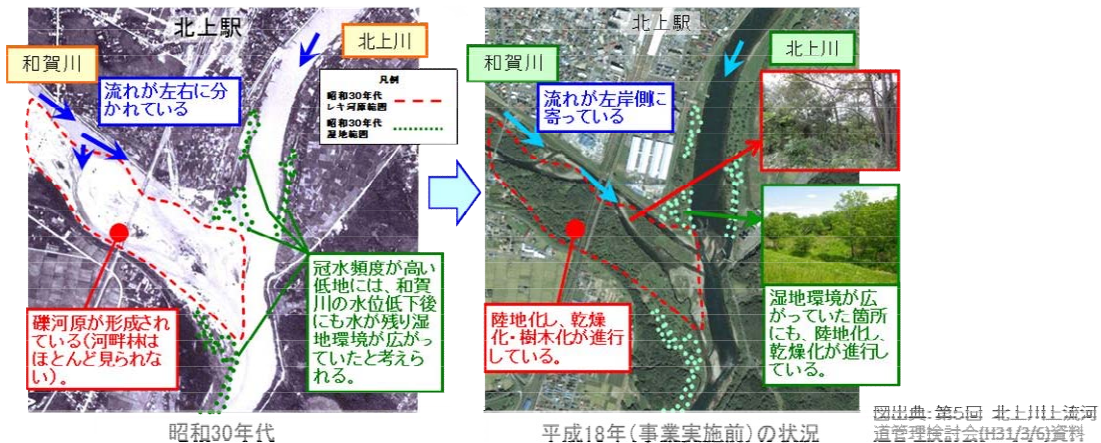
また、過去に見られた礫河原が消失し河原・湿地特有の多様な環境が失われていた。

<課題>

自然再生事業(礫河原の再生)を行う中で、流下能力の改善を図りつつ、多様な自然環境の保全・再生を行っていくことの事例が当時は少なく、検証を重ねながら進めることが課題であった。

<目標>

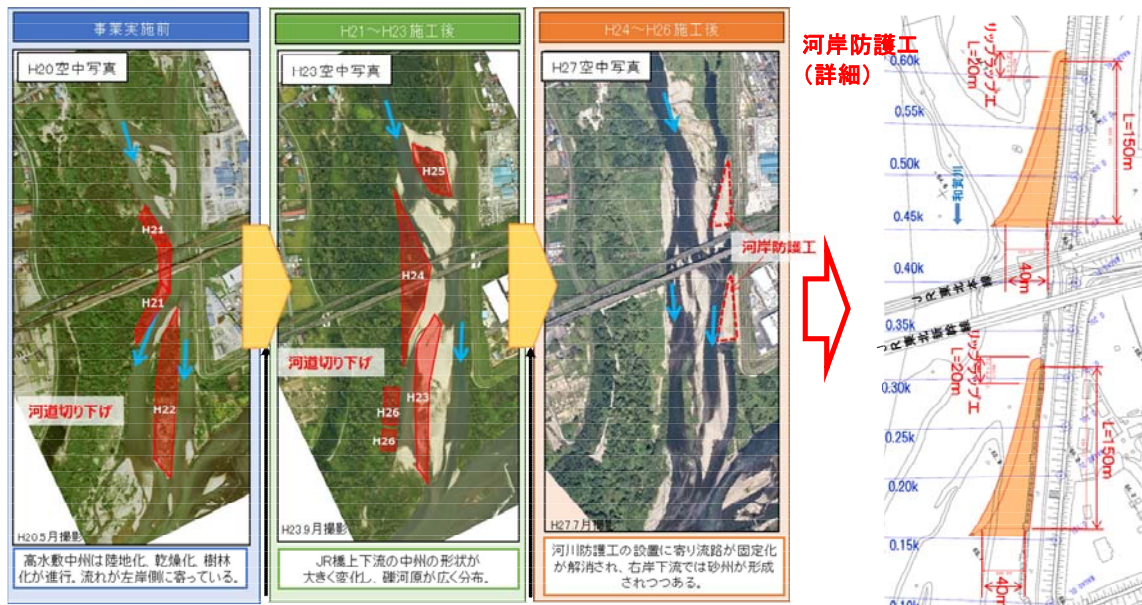
礫河原再生と樹木管理を目的とした「北上川上流自然再生計画」を策定し、和賀川における①流路の適正化、②礫河原の再生、③適正な樹木管理を図ることとした。



取り組み内容・対策例 (1/2)

- ・高水敷及び河床の掘削を、平成21年～平成26年にかけて実施した。
- ・流路の適正化(左岸に寄った流路を中央寄りにする)を図るため、河岸防護工を平成27年に設置した。

施工箇所



取り組み内容・対策例 (2/2)

- ・ハリエンジュ林の伐採・伐根、ハリエンジュの枯死を目的とした樹皮剥ぎ試験を行った。
- ・環境変化を追跡するため、動植物のモニタリング調査を行った。



伐採直前の和賀川合流点の状況  
(平成18年 1月27日撮影)



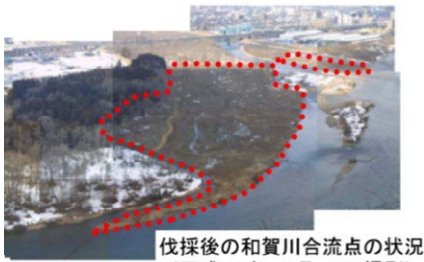
樹皮剥ぎの実施状況  
(令和3年6月10日)



モニタリング状況(植物調査)



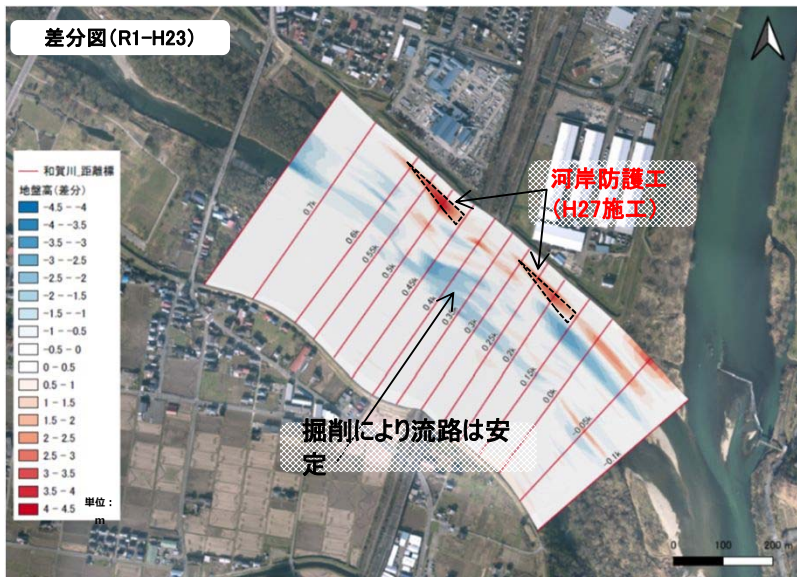
モニタリング状況(動物調査)



伐採後の和賀川合流点の状況  
(平成18年 3月 8日撮影)

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

- ・切り下げ直後は礫河原(砂州)が再生したが、現在は掘削河床高並びに一部礫河原を維持しているものの5年の間に中州には植物が繁茂している。(ただし掘削箇所ではハリエンジュの再繁茂は見られない)
- ・高水敷及び河床の掘削と併せて行った河岸防護工の設置により、左岸に寄っていた流路が改善し、和賀川左岸堤防の安全性は向上した。
- ・ハリエンジュの再繁茂抑制としては、樹皮剥ぎによる枯死が可能であることを確認した。
- ・動植物のモニタリングについては概ね礫河原性の動植物が確認出来た。



R3.8.6  
幹の立ち枯れの状況



R3.8.6  
葉を落とし枯死した状況

備考

- ・「樹木管理」のモニタリングを、令和4年まで継続する計画である。